

平成29年度 第1回 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会 会議録 (概要)

日 時 平成29年5月30日 (火) 午後2時00分から午後4時00分

場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階 研修室

出席者 黒岩史郎会長、高橋貴子副会長、江間由紀夫委員、渡辺浩隆委員、山根清孝委員、小林謙介委員、市川正人委員、村松桂子委員、木藤直美委員、村田セツ子委員、加藤美智子委員、飯高優子委員、西出信夫委員、鈴木君江委員、上谷豪委員、早坂ひとみ委員、本間恵委員 (鎌ヶ谷市健康増進課主幹)

欠席者 井手勝則委員、山本幸子委員、高橋徹委員 (鎌ヶ谷市社会福祉課長)

事務局 (障がい福祉課) 斉藤実障がい福祉課長、星直子係長、櫻井誠支援係長、中村浩主任主事、(もくせい園) 米良康史施設長

関係者 大竹学 (もくせい園)

コンサルタント 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 担当者

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 0名

添付資料

- ・ 式次第
- ・ 資料1 第5期鎌ヶ谷市障がい福祉計画策定概要
- ・ 資料2 第5期鎌ヶ谷市障がい福祉計画スケジュール
- ・ 資料3-1 「第5期鎌ヶ谷市障がい福祉計画」策定のためのアンケート調査【概要】
- ・ 資料3-2 「第5期鎌ヶ谷市障がい福祉計画」策定のためのアンケート調査票
- ・ 資料4 第5期鎌ヶ谷市障がい福祉計画策定のための関係団体・事業所調査実施概要
- ・ 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会設置要綱
- ・ 平成29年度鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会委員名簿
- ・ 相談事業 28年度実績

<本日の傍聴人及び会議の出席状況について>

事務局より、出席者数が会議開催の定足数である過半数を満たしていること及び傍聴者が0名であることを報告した。

1. 委嘱状交付

人事異動等により変更の申し出があった2名の委員（松村佳子委員、小林謙介委員）に委嘱状を交付した。

2. 課長挨拶

平成29年度（今年度）の障がい福祉課の大きな目標は2つあり、1つ目は基幹相談支援センターの立ち上げである。平成29年10月の開設を目指し準備を進めており、近いうちに委託事業者が決定する予定である。

2つ目は、本日の議題でもある第5期鎌ヶ谷市障がい福祉計画の策定である。

現在の第4期計画が平成29年度に終了することから、平成30年度から平成32年度までを計画期間とする第5期計画の策定作業を今年度中に行う必要がある。

本日は、計画の策定についてがメインテーマになるので、皆様からの忌憚のないご意見をお願いしたい。

3. 委員・事務局紹介

（各委員・事務局による自己紹介）

4. 平成28年度一般相談の実績報告（サポートネット鎌ヶ谷・なしねっと）

（1）サポートネット鎌ヶ谷の実績報告（サポートネット鎌ヶ谷より報告）

平成27年度の職員配置は常勤が1名、非常勤4日が1名、非常勤3日が1名だった。サポートネットの専用車を持てたこと等によって、平成27年度に比べて相談件数が25パーセント増、訪問件数が34パーセント増となった。それに伴い電話の件数も多くなり、反対に電子メールでの相談は減少した。メールの内容は、平成27年度は夜間に不安になった人等からのものが多かったが、平成28年度はそれ以外に就労している人、ご家族、発達障がいの人等からの相談があった。

（2）なしねっと（もくせい園）の実績報告（もくせい園なしねっとより報告）

相談支援を利用している障がい者等の人数は、実人数・延べ人数ともに平成27年度より増加した。その理由は、まず相談員が他の業務との兼任から専任になり積極的に外部に出かけられる環境になったことと、平成28年度から、法人内の相談支援事業・短期入所・グループホームの部門が地域支援部という形で合併し、より動きやすい体制となったことが考えられる。

次に、相談支援事業の実施体制について、資料に身体及び精神障がいの実績がないのは、当事業所は知的障がいに特化しており、知的以外の障がいについては、各専門の相談事業所や、関係機関に紹介しているためである。

支援方法については、延べ人数である。平成27年度は、訪問と電話相談、個別支援で全体の半数、残りの半数は関係機関だった。平成28年度もほぼ同じで、それぞれに増加した。特に増えたのが関係機関を通しての支援であるが、その理由は、全体の件数が増加した分だけ関係機関と相談する機会が増加したからではないかと思われる。

次に、支援内容については、「福祉サービスの利用等に関する支援」がほとんどを占める。これは平成28年度と同様に、知的障がい者本人からではなく、ほぼ保護者や関係機関からの相談となっているからである。

➤ 実績報告についての質疑応答

委員

計画相談の件数も含まれているか。

委員

2団体ともに含まれている。

会長

両団体ともに、支援方法の「関係機関」の数が多いが、主にどういうところか。

サポートネット鎌ヶ谷担当者

病院、市役所の障がい福祉課、生活保護のワーカー、生活困窮者の社会福祉担当者、こども総合相談室、民生委員、訪問看護等である。

もくせい園なしねっと担当者

一番多いのは鎌ヶ谷市役所の障がい福祉課である。ほかには、入所の人であれば近隣の施設が多く、在宅等の人に関しては、ヘルパー、居宅介護サービスの事業所が多い。障がい児の計画相談ではこども発達センターとのやり取りが増えている。

委員

相談件数増加の要因は、困っている人が増えたと深刻に考えるべきことなのか、それともサポートの存在が広く知れ渡って利用が増えたという喜ばしいことなのか。

サポートネット鎌ヶ谷担当者

後者だと嬉しいが、相談ができるルートが増えたり、こども総合相談室や警察と一緒に支援するケースができたりと、様々なケースが増えてきた。

もくせい園なしねっと担当者

相談員が兼任の時は対応できず断っていたことも多かったが、専任体制になり、地域支援部という新体制もできたことで要求に応えられるようになったため、件数は増えた。しかし、市内の知的障がいを扱う事業所が増えたことから、当事業所の件数は減少傾向にある。その分出てきた余裕を今後は障がい児への支援に使いたい。

会長

もくせい園の障がい児への対応は昨年度（平成28年度）からか。

もくせい園なしねっと担当者

そうであるが、力を入れ始めたのは今年度からである。

委員

サポートネット鎌ケ谷の資料にある、身体障がい者からの相談件数は少ないが、これらは同じ人からの相談か。

サポートネット鎌ケ谷担当者

同じ人もいれば違う人もいる。身体障がいと精神障がいで重複の人もいる。

会長

身体障がいとの重複がある場合、身体障がいに先にカウントされているのか。

サポートネット鎌ケ谷担当者

重複してカウントしているかは事務上要確認だが、身体障がいのみの人はいない。

➤ サポートネット鎌ケ谷からの補足

サポートネット鎌ケ谷担当者

計画相談が比較的容易に進むような人にはほかの事業所を紹介している。計画相談でほかの事業所でのサービスが決定しても、それ以外の日常の不安等でうまく整理がつかないようなケースは、市の委託を受けている私どもがお受けしている。

ほかの事業所の方々へお願いしたいのは、障がい福祉サービスが終了して計画相談事業所の相談支援専門員が離れてしまうと、ご本人と相談先の縁が切れてしまうことが多い。そういう時に、是非、市の委託を受けている当事業所への相談につなげて欲しいと思う。ご協力をお願いしたい。

5. 第5期鎌ケ谷市障がい福祉計画について

➤ 計画策定のスケジュールについて

会長

計画スケジュールについてはこれでよいか。

委員

（意見なし了承）

➤ アンケートの実施概要について

会長

身体障がいの調査対象者は抽出されて全体数の約3分の1になり、知的障がいと精神障がい、難病患者の人は、ほぼ全員が対象になるということでよいか。

事務局

そのとおりである。

委員

郵送調査で返信がない場合にどう回答を拾うかだが、全員は無理でも小中学校の先生、計画相談の人、通所の作業場の職員等に寄り添ってもらいながら一緒に書けるようにしたほうがよい。

会長

書くのが難しいと思われる人には、こういうところにご相談ください、と書くことは可能か。部分的でもわからないところがあると放置されることもあり得る。

事務局

アンケート1枚目の「ご協力のお願ひ」に、その一言を入れられるか検討したい。いずれにしても、市内の事業者には、事前にアンケート調査を実施する旨、情報提供をしたい。

委員

集計時には障がい者の年代や属性等でターゲット層を複数設定し、クロス集計（選択肢の回答に対して属性別などの別の要素を含めて集計すること）等を活用して分けて集計できる仕組みを作らないと、数の多いターゲット層のニーズばかりが表に出てきてしまうことになる。

会長

ターゲットや年齢層をある程度均等にしないとニーズが隠れて出てこないということか。

委員

例を挙げれば、以前のアンケートでは「今のままで暮らしたい」「家族と同居したい」という回答が多かったが、これは、元々家族と暮らしている比較的高齢な身体障がい者の人数が多いため、彼らのニーズが出てきた結果である。知的障がいや精神障がいや単身生活をしている人、入所している人等のニーズは数として小さくなり、見えなくなってしまった。多数派のためだけの障がい者計画ではなく、少ない人数をどう取り上げるのかという視点が重要だ。

事務局

抽出時に年齢を考慮できるかわからないが、可能であれば均等になるようにし、ご意見を参考にして集計したい。

会長

障がい者の6割以上が65歳以上なので、非常に重要な視点と言える。

▶ アンケートの設問について

委員

知的障がい者やその保護者は、漢字や難しい表現が苦手な場合が多い。少なくとも振り仮名を振って欲しい。

事務局

振り仮名を付けるかは事務局でも議論になった。付いたものを見たところ、逆に知的障がい以外の人には非常に見にくいと感じた。最初は振り仮名無しのもを送り、振り仮名付きのものが欲しい人には、後からもう一度送りたいと考えているが、その方法でよいか意見をいただきたい。

委員

ほかにも例えば視力の関係で拡大したものが必要な人向けのを事前に用意しておき、それを希望する人には申し出ていただく、という対応をしてもらえると、きめ細かくできると思う。

事務局

拡大のものは考えていなかった。字を大きくしたものも用意したほうがよいか。

委員

可能ならばあったほうがよい。視力に限らず、様々な対応がある程度可能だということ事前に発信し、必要な場合は申し出てもらうのが丁寧なやり方である。

障がい者のニーズを吸い上げるためには、きめ細かい対応があったほうがより現実的なデータを取れるだろう。

会長

今の意見を受け止めて事務局で精査して欲しい。

事務局

事務局で検討する。

委員

2 ページ問 1 の「介助者」は、病院職員、通所施設職員、ヘルパーが想定されていると思うが、介助に当たる人以外に相談支援専門員や成年後見人等も関わる可能性があるので、ここは「介助者」ではなく「支援者」にしたほうがよい。

5 ページ問 1 2 の「独立して暮らしたい」は、一般のアパートやマンションを想定した「ひとり暮らしをしたい」のほうがよい。

8 ページ問 2 2 の「行動援護」の説明がわかりにくい。「知的障がいや精神障がいのために、自らの危機回避が困難な人などの外出を支援します」とすればよい。

委員

「あなた」という単語で質問すると、本人以外が記入した時に主語がぶれることがある。障がい児の設問で、最初に「あなたが障がい児の場合のみお答えください。」としているのに、その後の設問で「お子さんは」と書かれていると、ぶれが生じやすい。誰が記入するのかという主語について正確を期すべきだ。

会長

「あなた」という単語に代わる何か適切な表現はあるか。それとも記入者が誰かはつきりすればよいのか。

委員

設問ごとに「宛名ご本人」と書くか、「宛名ご本人についてお書きください」とページごとに入れる等、工夫をしたほうがよい。

委員

4 ページ問 1 1 の「あなたの現在のお住まいはどこですか」に対する選択肢に「病院」とあるのはよくない。質問を「どこで生活していますか」、選択肢を「入院中」とするほうがよい。

委員

7 ページ問 1 9 - 1、選択肢 3 「施設・作業所などで働いている（福祉的就労）」は A 型 B 型事業所を指すのか。施設名やサービス名を具体的に入れたほうが答えやすいのでは。福祉的就労と一般的就労のどちらなのかを聞く問だと思うが、通所している人は作業所ではなく事業所に行っていると思っていることもある。

事務局

逆に A 型 B 型とするとわかりにくいと考えた。

委員

選択肢 3 を除き、選択肢 6 の「その他」で記載してもらうのはどうか。

委員

「施設で働いている」とすると、施設でパートとして働いている人もいるので、福祉的就労なのか一般就労なのかわからない。

会長

選択肢 4 「自営業を営んでいる」と 5 「内職・自営業の手伝い」の違いもわかりにくい。

事務局

では、選択肢 1・2 はそのまま残し、3 「施設・作業所などで働いている（福祉的就労）」を取り除き、4・5 を統一して新しい選択肢 3 「自営業またはその手伝い」、4 「その他」とする。

委員

4 ページの問 1 0 「いつも介助されている方が介助できなくなったとき、どうされていますか（どうするつもりですか）。」という設問だが、現在と未来を同時に聞くより、「将来どうしたいですか」という質問のほうがいいのでは。「どうするつもりですか」という文言は怖く感じられる。

委員

手話で「どうしたいですか」はわかりにくいので、「どういう方法を選びたいですか」のほうがよい。

委員

地域に相談していこうという福祉計画のはずなのに、選択肢の中に、相談員や市役所に相談するというものがない。

会長

では、問いかけは「どういう方法を選びたいですか」とし、選択肢も増やすことにする。

委員

5 ページが全般的に援助者目線の書き方でわかりにくい。問 1 1 - 1 の入院入所理由は自由筆記がよい。

問 1 3 の選択肢も、家族や専門家が書いたような書き方ではなく、本人目線の言葉でわかりやすく書かなければ伝わりにくい。

事務局

問 1 1 - 1 は自由記述にし、問 1 3 はご指摘を踏まえて検討する。

会長

問 1 3 も自由記述にしてはどうか。

事務局

3 年前のアンケートでも問 1 3 とほぼ同じ選択肢で質問している。

委員

では、選択肢で聞きたい分野は、住居・医療・サービス・お金とはっきりしているので、「この分野で必要だと思うことがあればご記入ください」とし、分野ごとに記入してもらってはどうか。

委員

社会とのつながりに関する選択肢も入れたいので、住居・医療・サービス・お金のほかに、社会参加も加えるとよい。

事務局

では、分野を住居・医療・サービス・お金・社会参加・その他に分け、後ろに括弧を付けてそれぞれ書いていただく形とする。

会長

今日出た意見を踏まえて作成したアンケートを、発送前にもう一度委員が見ることは可能か。

事務局

いただいた意見を反映させたものをメール等でお送りする。最終締め切りの平成 2 9 年 6 月 5 日までに随時ご意見をいただきたい。

6. その他

事務局

最新版の福祉マップを資料としてお配りしたので活用して欲しい。障がい福祉課の窓口等でも配布していく。

7. 閉会

会長

それでは、以上で会議を終了する。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成29年7月11日

氏名 飯高 優子

氏名 高橋 貴子